

令和3年2月7日

2020-010

活 動 報 告 書

一般社団法人 在宅看護センター北九州
代表理事 坂下 聡美

1. 活動の内容・実施経過

「第3回 地域在宅ネットワーク会議」

① テーマ

「在宅看護と公衆衛生（コロナ感染症対策）」

② 開催日時

令和2年10月4日（日）13:00～17:30

（ボートレース若松 GⅢシャボン玉石けん杯 開催中）

③ 場所

クレカ若松2F 市民ホール （ボートレース若松場内）

④ 参加者数 100名程度 （zoom 遠隔参加）

MT-JAPAN 監修 YouTube ライブ配信



⑤ 特別企画（ご講演）

(1) 「コロナと感染対策 ―北九州での取り組み―」

感染症対策研究センター

センター長 松本 哲朗 様（北九州市医務監・産業医科大学名誉教授）
（元産業医科大学病院 副学長・病院長）



(2) 「石けんの抗ウイルス効果」について

シャボン玉石けん 研究開発部

研究開発部長 川原 貴佳 様



※「第3回 地域在宅ネットワーク会議 チラシ」

主催 日本財団在宅看護センター
一般社団法人 在宅看護センター北九州
・・・地域啓発活動・・・

第3回
地域在宅ネットワーク会議
公衆衛生(コロナ感染対策)と在宅看護

コラボ企画
健康な体ときれいな水を守る。
シャボン玉おけ
感染症対策研究センター

基調講演 **コロナと感染対策**
— 北九州での取り組み —
同センター長
松本 哲朗先生
北九州市保健福祉局 医務監
産業医科大学 名誉教授
(元 産業医科大学 副学長 副学長)

日時 **令和2年10月4日(日)**
13:30~16:40

場所 **ポートルース若松(若松競艇)場内
クレカ若松 2F 市民ホール**

参加費 **無料** 先着50名 (事前予約制)
ご参加は裏面の参加申込書をご記入のうえ、
FAX (093-742-6036) にてお申し込みください。

YouTube ライブ
https://www.youtube.com/channel/UCwwBbx1BioMlyFwC_QedWtg/
当日は、YouTubeでの配信も行います。
上記アドレス、QRコードより閲覧可能です。

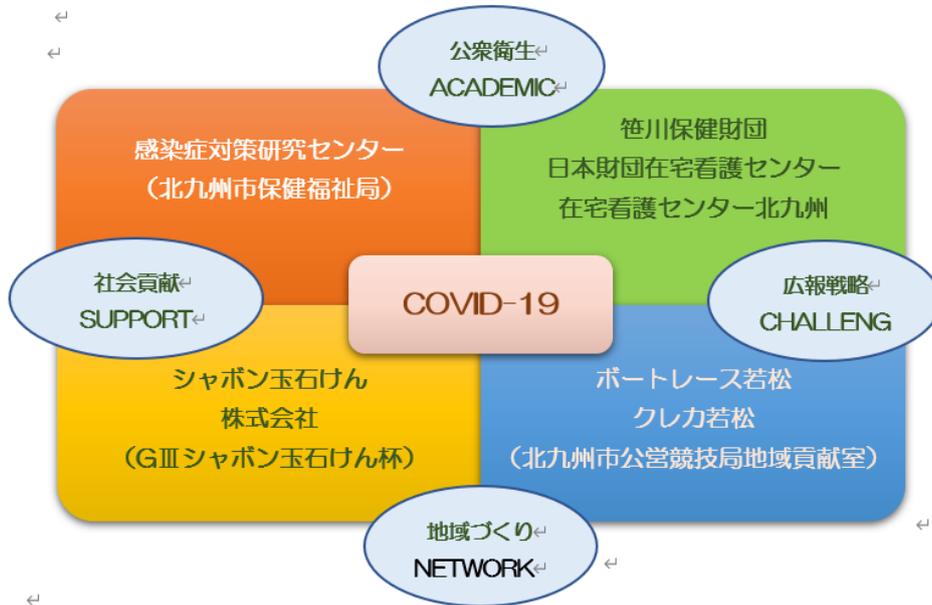
Supported by
笹川保健財団
SASAKAWA
Health Foundation
2020年度(公財)笹川保健財団
地域啓発活動助成

お申し込み先/お問い合わせ先
一般社団法人 在宅看護センター北九州 〒808-0139 北九州市若松区小倉ひびきの3丁目4-13クレイトータス 102
Tel: 093-742-6006 Fax: 093-742-6036 HP: <https://nurse-kitakyu.com/> E-mail: info@nurse-kitakyu.com

※スタッフ集合写真



Activity concept[↵]



2. 活動の成果

第3回「地域在看ネットワーク会議」は、例年どおり、ポートレース若松／地域交流施設「クレカ若松」市民ホールで開催した。

会議では、コロナ禍における公衆衛生や在宅看護について、アカデミックな議論を交わし、IT 情報通信を活用した地域支援の仕組みについても検証した。

基調講演では、北九州市保健福祉局医務監（産業医科大学名誉教授）／感染症対策センター長 松本 哲朗 先生をお招きして、コロナと感染対策（北九州での取組み）について、臨床・研究の両面からご講演を頂いた。

『コロナ対策の「要」は、「基本行動」にある。』

コロナ禍では、「確固たる意識」をもち、基本に忠実であることが極めて重要、併せて、在宅看護が地域医療の要、基本行動の要になることを論じられた。

地域交流の拠点「クレカ若松」、「ポートレース」の広報戦略では、北九州市公営競技局地域貢献室（ポートレース若松）と連携した。ポートレース振興のためにも、地域づくりに発展するような啓発活動は重要であり、「地域在看ネットワーク」を大きく波及させたい。

また、地域社会の多角的な取り組みは、新たな可能性でもあり、知らないことへの挑戦でもある。会議では、地元企業である「シャボン玉石けん」様（GⅢシャボン玉石けん杯）ともコラボレーションし、「石けんの抗ウイルス効果」についても学習した。

地域啓発の情報発信では、地元の映像配信会社である MT-JAPAN 様のご協力を得て、YouTube を介した情報発信を試みている。

3. 今後の課題

世界的な感染症リスク、不可逆的な在宅医療（在宅看護）の流れ、加速された情報社会、このような社会情勢もとで、新たなスキームを模索しなければならない。

地域在看ネットワークでは、「研究機関」や「地元企業」との新たなコラボレーション、多角的な地域啓発活動も追求していく。

ここでは、最先端技術や情報通信技術を屈指して、アカデミックな情報発信も行う予定である。それぞれの組織の特性を十分に踏まえながら、高いシナジー効果が期待される。

地域在看ネットワークは、ひとの出会いや役割、協働の大切さも踏まえながら、有用な情報を吸収し、発信していく仕組みでもある。このような活動が、さらに地域社会から信頼をいただけるよう、新たな事業展開も行っていく。

地域啓発活動は、社会に眠る「潜在的な看護力」やスタッフの掘り起こしにも有用である。地域のことを思い、自分の考えを地域に自ら発信することは、スタッフの意識改革でも重要であり、参加者から多大な反響もある。地域啓発活動を「人材育成と人材発掘」にも活用していきたい。

4. 活動の成果の公表予定

福岡県訪問看護連絡協議会 2021/1月号 寄稿
コロナ禍の「地域在看ネットワーク」について